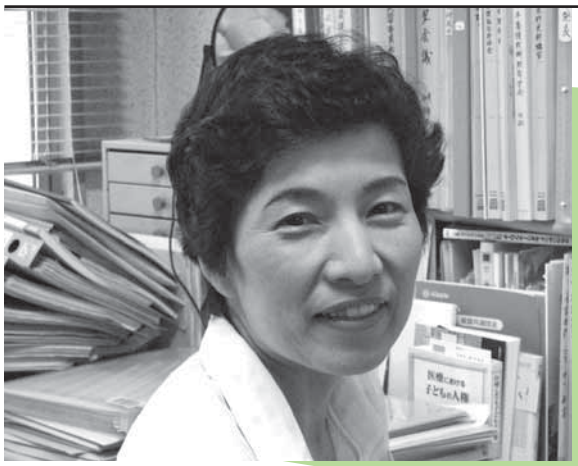

女性研究者ロールモデル 32

教育学部
准教授 **本田　優子**さん
Honda Yuuko

●プロフィール

1982年　熊本大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程入学
1986年　千葉大学大学院看護学研究科修士課程精神看護学専攻
1988年　熊本大学教育学部助手
1993年　夫の仕事のため退職し東京へ。
1994年　再び熊本大学助手
2002年　熊本大学社会文化科学研究科で公共社会政策学を学ぶ。
2005年　博士号取得　熊本大学教育学部助教授

心の問題から社会へ 研究を広げ、皆を幸せに。

人の心の問題に関心を持って

思春期の心の健康問題と子どもの権利（人権）について研究を続けてきた本田さんは、教育学部養護教諭養成課程で教鞭をとっています。専門は「学校における医療的ケアの教育」「思春期の子どもの権利擁護」「保健学習及び保健指導の方法」。養護教諭とは、誰もがお世話になった経験を持つ保健室の先生のことです。本田さんは子どもの頃から引っ込み思案で、うまく人と話せず、「そんな自分を変えたい」という強い思いがあり、人の心の問題に関心を持つようになりました。1982年、熊本大学教育学部に入学。学部時代の経験では精神科の実習が特に難しかったため、本田さんは精神看護学を学ぶため、大学院に進学します。

子どもの幸せと健康に役立つ研究を

千葉大学大学院生時代にはいろいろな人との出会いがあり、振り返ってみると充実した年月でした。思春期外来の実習では、毎回必ず反省会があり、そこで学んだことはとても大きかったそうです。2年間、毎週、本田さんは通院する子どもたちと話し、ゲームをして遊び、絵を描いたり箱庭を作ったりという実習経験を積みました。それまでは子どもが好きというわけではありませんでしたが、この経験が子どもの心の美しさや可愛らしさに気づかせてくれたそうです。「思春期外来での実習経験から、自分に自信が持てるようになり、子どもに寄り添うことができるようになりました」と。現在に至るまで「子どもたちの健康と幸せに貢献出来る研究を続けたい」という思いはずっと変わりません。

生涯学び続ける

「中学生とその親世代における人生に対する価値観と親子関係」「高校生女子のやせ願望とその背景」等々、本田さんは多くの論文をまとめられています。2005年には『思春期の子どもの意思決定ー現代医療におけるケア的視点の必要性ー』という研究テーマで博士号を取得します。また、「心の健康」「コミュニケーション技術」「ストレスと健康」と題して講演も行っています。モットーは、「何事にも真摯に取り組むこと」。下のお子さんが保育園年小になったのを機に、熊本大学社会文化科学研究科の第一期生として博士課程後期入学します。そして、お子さんの保育園卒園と同時卒業を目標に、公共社会政策学を学び、無事3年間で博士号を取得。自分の学んだことを社会に還元していくためには、どうしても博士課程に進む必要があったといいます。「夫と上の子どもの協力もありましたし、周囲に助けられながらの毎日でした」と微笑む本田さんですが、「一丈の堀を越えぬもの、十丈二十丈の堀を越うべきか」という教えにずっと励まされてきました。苦しい時にはこの言葉を思い、とにかく最優先の課題・問題から目をそむけずに、ひとつひとつ取り組んでいくよう心がけているそうです。